

給食だより 11月号

令和7年10月31日
大田区立池上小学校
校長 平林 里美
栄養士

気温がぐんと下がり、空気が乾燥してきました。インフルエンザなどの感染症が流行っています。食事の手洗いうがいを丁寧に、感染症を予防しましょう。

11月23日 勤労感謝の日

毎年11月23日は勤労感謝の日です。勤労感謝の日には、もともと新なめ祭というお祭りが行われていました。新なめ祭とは、秋の収穫を祝い、獲れた作物を神様にささげ感謝するお祭りです。収穫を祝う新なめ祭が、のちに収穫をもたらした一年間の人々の働き「勤労」に感謝し、豊かな自然の恵みを祝う「勤労感謝の日」になったそうです。勤労感謝の日をきっかけに、改めて食に携わる人々のはたらきや、食べ物の命をいただくことについて考えてみましょう。

給食が届くまでにはどんな働く人がいる？

給食が届くまでにはどんな人々のはたらきがあるのでしょうか？



食材を作る人

運搬・販売する人

調理する人

他にも調理用機器をメンテナンスしてくれる業者さんなどたくさんの方がかわってくださり、毎日安全に給食を提供することができます。

食事のあいさつの意味について考えよう

給食の時間になると「いただきます」という元気いっぱいのあいさつが聞こえます。毎日当たり前になっている食事のあいさつですが、その意味を知っていますか？いただきますは食べ物の命、ごちそうさまは食べ物を届けてくれた人への感謝の気持ちを表すあいさつなのです。心を込めてあいさつできるとよいですね。

いただきます

「食べ物の命をいただきます」という意味。食べ物への感謝の気持ちが込められている。



ごちそうさま

馳走(ちそう)は「走り回る」という意味。昔はスーパーなどがなく、走り回って食材を用意した。走り回って食事を用意してくれた人への感謝の気持ちが込められている。



食缶スッカラカンキャンペーン

10月16日は世界食料デーでした。世界食料デーとは、食品ロスや飢餓などの世界の食糧問題について考える日です。池上小学校ではこの日に、食品ロス(食べ残し)を減らすことを目指し、「食缶スッカラカンキャンペーン」を行いました。結果は前の週の和食の日と比べ、ごはんは約半分、魚は三分の一と、大幅に食べ残しを減らすことができました。

実はその日だけでなく、その後も食べ残しが少ない日が続いています。これは一人ひとりが「もったいないからあと一口食べよう」「苦手なものも一口はチャレンジしよう」と意識してくれた結果です。ぜひこれからも「食べられる幸せ」を大切に、たくさん食べてすくすくと成長してほしいと思います。